

ゆめ・まち・みらい vol.13

阪急阪神ホールディングスグループ社会貢献活動「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」情報誌
[2012年春号(年4回発行)]



ぜひご家庭でもお読み下さい

社会貢献は 終わりのない 僕のライフワーク

ゆめ・まち・みらい インタビュー
矢野 耀大さん
(元・阪神タイガース選手)

●2012年度
社会貢献活動リスト

●ゆめ・まち基金
助成対象団体レポート
「こうべ子どもにここ会」

●活動レポート
阪急阪神交通社グループ
「みんなが笑顔の
クリスマスパーティー」

●おすすめ!ボランティア
「フリースクールみなもでの
ボランティア募集中!!」



阪急阪神ホールディングスグループ

「阪急阪神 未来のゆめ・まち
プロジェクト」とは

2009年よりスタートした、阪急阪神ホールディングスグループの社会貢献プロジェクト。「未来にわたり住みたいまちづくり」を方針に、「地域環境づくり」と「次世代の育成」の分野で、グループ会社や従業員、市民団体の皆さまとのさまざまな連携を通じて、活動を進めています。

こちら事務局

新規
募集

プライベートでのボランティア活動、応援します!
従業員の皆さまがボランティア活動を行う
団体に支援金を!

この4月から、グループ従業員やOBの皆さまのボランティア活動を応援するため、ボランティアとして参加されている団体を支援する制度を導入します。どうぞ活用下さい!

対象: グループ従業員およびOB(対象会社のみ)が、継続してボランティア活動を行っている★民間非営利団体。
(但し、政治・宗教を主たる目的とする団体、行政の外郭団体、自治会およびPTAは対象外。)

例) 少年野球・サッカーチーム、ボーイスカウト、こども会、環境保全団体など

★申請従業員が社会貢献ポイント制度に参加し、年間12日以上活動申請をしていることが必要です。今回に限り支援金申請と同時に、ポイント制度入会および直近1年間の活動申請も受け付けます。

支援金使途: ゆめ・まちプロジェクトの重点領域である「地域環境づくり」と「次世代の育成」に関わる活動で使用されるもの。
(但し、飲食費・団体から第三者への寄付金は対象外。)

例) 少年野球・サッカーチームのボール購入代、こども会で行く自然体験学習施設の入場料、里山保全活動で植樹する苗木代など

支援金額: 1団体あたり3万円上限(総額100万円まで、応募多数時は抽選)
応募方法: 団体代表の方と当社グループ従業員連名で申請書に記入・捺印のうえ、原本を事務局にご提出下さい。

申請締切: 5月31日(木)事務局必着

※制度詳細ならびに申請用紙の入手については、下記ホームページの「従業員向けページ」や別途お配りするポイント制度案内用紙をご覧ください。

皆さまと積み上げた実績、一挙公開です! 数字で見る 社会貢献ポイント制度2011年度活動報告

阪急阪神ホールディングスグループの従業員やOBの皆さまの、地域・社会への貢献活動を応援する社会貢献ポイント制度。2011年は、会員699人に合計6,654ポイントをお渡ししました。今年も申請をお待ちしています!

参加会社 47社 **会員数 699人** (昨年比 +332人)

ポイント付与数 6,654ポイント (昨年比 +1,490ポイント)
※活動期間2011年1月~12月

ポイント交換数 2,128ポイント (昨年比+500ポイント)
※内訳:市民団体への寄付528ポイント、六甲山に植樹する苗木630ポイント、フェアトレード商品への交換970ポイント

六甲山への植樹本数 10本
※内訳:従業員の手による植樹5本、六甲砂防事務所への寄贈(治山計画に基づく植樹計画への提供)5本

寄付を通じて皆さまの真心をこども達へ 書き損じハガキの回収について

書き損じハガキの回収にご協力いただき、ありがとうございました。集計結果、寄付額が決定しましたので、ご報告いたします。

あしなが育英会へ **118,357円 寄付**
(ハガキ2,357枚、未使用切手38枚)

東日本大震災で親を亡くしたこども達への支援に役立てられます。

阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト事務局 阪急阪神ホールディングス株式会社 人事総務部社会貢献担当
shakai@hankyu-hanshin.co.jp TEL: 06-6373-5086 FAX: 06-6373-5174
ホームページ <http://www.hankyu-hanshin.co.jp/yume-machi/>
従業員専用ホームページのユーザー名、パスワードは **8984** です。

阪急阪神 ゆめ・まち 検索

社会貢献用語辞典
未来をつくる
コトバ
vol.13

多文化共生

[Multicultural Symbiotic]

現在、日本に住む外国人は200万人以上。国籍や民族が違えば、文化も風習も異なり、時には理解し合えないことも。そんな「違い」をお互いに認めながら対等な関係を築き、地域社会の構成員として共に生きていくことを「多文化共生」と定義されています。異文化を排除するのではなく、無理に迎合するのではなく、共に生きるという決意、関わり合う…それは全ての人々が自分らしく生きられる幸せな社会なのです。
※本誌P5「こうべ子どもにここ会」の記事もご参照下さい。



編集後記

春です!この4月から、従業員の皆さまのボランティア団体を支援する新制度を始めます。地域の「ええこと(=ボランティア)」応援しますので、ぜひぜひ活用下さい!(相良有希子)

矢野さんの「取り組み内容に責任を持ち、続けていくことに意味がある」という言葉が、とても印象的でした。新年度もこの言葉を胸に、公私共に(?)がんばります。(平野里美)





series

13

ゆめ・まち・みらい インタビュー

元・阪神タイガース選手

矢野 耀大さん



隊長として子ども達にチャレンジすることの大切さを教えてくれた矢野さん。

社会貢献は、終わりのない 僕のライフワーク

阪神タイガースの捕手として2度のリーグ優勝に貢献した矢野耀大さん^{あきひろ}。引退後は野球解説や講演などでも活躍される一方、現役時代の背番号を冠した「39(サンキュー)矢野基金」の設立など、社会貢献にも力を入れています。2011年の「阪急阪神 ゆめまちチャレンジ隊」では、隊長として多くの子ども達に「チャレンジする大切さ」についてメッセージを送っていただきました。その行動力の源は何なのか：矢野さんにお話を伺いました。

ある患者さんとの 出会いが 僕の生き方を変えた

「39 矢野基金」を設立したきっかけは、ある筋ジストロフィー患者さんのお見舞いに行ったことです。ずっと僕にファンレターをくれていた方で、いつかタイミングが合ったら会いに行きたいと思っていて…その時、球団からは「今回の訪問のことを報道関係者に知らせますか？」と聞かれましたが、断りました。僕が美談の主人公みたい扱われるのが嫌だったんです。周りから「矢野、何をカッコつけてんねん」ってね。だけど実際に患者さん達と話してみると「自分達が病気と闘っていることや病気による不便さについて、矢野さんを通じてたくさんの人に

知ってもらいたい」と言われて…。自分が周りからどう見られるかばかりを気にしていたことが、恥ずかしくなりました。そこから、本当に役立つ社会貢献って何だろう、僕に何ができるんだろうと考え始めました。そして周囲にも相談するうちに、多くの方々の協力で基金の設立が実現したので、

基金の用途は2つあり、ひとつは筋ジストロフィー患者さんへ電動車椅子を贈ること。この病気は進行するに従って身体機能がおとろえ、車椅子が合わなくなります。行政の補助だけでは高価な車椅子を何度も買い換えることはできないと知り、協力させてもらうことにしました。もうひとつは、児童養護施設で暮らす子ども達への支援。どちらも目の届く範囲で誠実に対応したいので、大

阪府下に限定しています。僕の活動を見て「それなら自分の地域でもやってみよう」と思ってくれる人が出てきたら、すごく嬉しいことですが、僕自身は、何より始めたことに責任を持ち、きちんと長く続けていくことが大切だと考えています。

誰かを元気づけてたくて いつも自分が 元気をもらっている

基金をスタートしてから、励ましの声をかけられることが多くなりました。ファンの方から「矢野さん、募金入れたよ」と言われたり、「基金に使うて下さい」と手渡しでお金をいただくことも。「矢野さんが先頭に立つてくれるおかげで、私達も社会に貢献でき

ました」という声も多く、タイガースファンは温かいなあと思えました。僕達プロ野球選手は、ファンがいなければ成り立たない職業です。誰も見てくれない、球場にも来てくれないでは、いくら良い成績を残しても意味がない。僕自身、応援してもらったことで自分の力以上の結果を残せました。だからこそ、今まで応援してもらった分、これからも何かを社会に貢献していきたいし、そんな僕の姿を見てもらうことで、タイガースの後輩にも同じように感じてもらうなら嬉しいですね。

最近つくづく思うのですが、誰かのために何かすることで、逆に自分が元気づけられるんです。先日、小学校低学年の子に電動車椅子を贈ったのですが、その子のお母さんから映像が送られてきたんです。今までは人に押しもたわれないとどこにも行けなかったのが、自分で動かせるのが楽しいみたいで、すごくはしゃいでいてね。「右にも左にも行けるやん！回れるやん！」。プライバシー保護のため募金して下さった皆さんに公開できないのが残念なくらい、感動的な光景でした。見ると本当にエネルギーが湧いてくるんです。

社会貢献で大切なのは 「やめない」覚悟で 取り組むこと

人間は一人きりではがんばれない。「誰かのために」という目標があるから力が出るんだと思います。そしてまた自分も、誰かのがんばりに支えられて生きている…。そう意識すれば、自然に社会のために何かをしようと思えるのではないのでしょうか。「阪急阪神 未来のゆめまちプロジェクト」も、同じですよ。企業として人々に支えられているから、社会にそのお返しをする。僕にも「阪急阪神 ゆめまちチャレンジ隊」隊長という有意義な機会を与えていただき、感謝しています。企業が子ども達にチャレンジする機会を与えることは素晴らしいと思うし、僕自身が子ども好きだから個人的にも楽しませてもらいました(笑)。子ども達は本当にパワフルでしたね！初対面でもすぐにうち解けてくるし、色々なことに挑戦してもすぐマスターするし、「一緒にいると時間があつという間でした。僕にも小学生の娘がいるので、参加させたかったくらい！実施会場のひとつ、六甲山カンツリーハウス

には後日家族で遊びに行つたんですよ。

先ほどもふれましたが、こういった社会貢献活動で大切なのは長く続けることではないでしょうか。立ち

Profile

Akihiro Yano
矢野 耀大さん

1990年にドラフト2位で中日ドラゴンズに入団。97年に阪神タイガースへ移籍、正捕手として2010年の引退まで活躍。ベストナイン、ゴールデングラブ賞の常連で、その人柄と共にファンの人気が高い。現在はプロ野球解説を中心に活動する一方で、社会貢献活動にも熱心である。「阪神の女房」「考える虎-最強タイガースを作り上げた攻守のカナメ」などの著作あり。

上げた時の盛り上がりやをずっと維持していくのは難しいかもしれませんが、例え先細りになっても「やめない」覚悟を持って取り組むこと。これは僕自身への自戒を込めて言っているんです。毎年、自分でも電動車椅子を1台ずつ贈っているのですが、たとえ基金がなくなっても、僕が贈るものだけになつたとしても、生涯続けていきたいと思っています。



39(サンキュー)矢野基金 矢野さんの背番号「39」の名前がついた基金

インタビューの中でふれられた「39(サンキュー)矢野基金」は、大阪府社会福祉協議会の協力を得て、ご自身の寄付金を原資に立ち上げられた「筋ジストロフィー患者・児童養護施設の子ども達への応援基金」です。

募金の使途 ●大阪府内におられる筋ジストロフィー患者さんへ、電動車椅子などの支援
●大阪府内にある児童養護施設で暮らす子ども達への支援
(文房具提供・野球大会への用具提供や大会実施支援)

募金の方法 募金方法は2種類。どちらも「Yahoo!ボランティア基金」からのインターネット募金となります。
●壁紙購入による募金:Yahoo!ウォレットへの登録(無料)が必要。
※この募金に協力すると、矢野耀大オリジナル壁紙をすべてダウンロードできます。
●Yahoo!ポイント寄付による募金:利用可能なポイント残高のあるYahoo!JAPAN IDでのログインが必要。



詳しくは「矢野耀大オフィシャルウェブサイト」をご覧ください。 <http://www.yano39.jp/>



自然・文化を大切にしながら地域コミュニティをはぐくむ「環境づくり」、
未来を担う子ども達の健やかな成長を支援する「人づくり」。
グループ各社から78件の「良いまちにしたい!」という思いが集まりました。(2012年3月1日現在)

阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト

2012年度 社会貢献活動リスト

都市交通

環境づくり

- 阪急ええはがきコンテスト2012 京都
阪急電鉄
- クリーンハイキング
阪急電鉄
- 遺失傘販売による環境保全活動への寄付
能勢電鉄
- 国崎クリーンセンター啓発施設の見学会ウォーク
能勢電鉄
- 従業員による森林保全活動
能勢電鉄
- 「こども110番」活動
阪急タクシー、阪神ステーションネット
- 宝塚市西谷地区における不法投棄防止および清掃活動
阪急田園バス
- 「アドプト・ロードとよなか庄内」の清掃活動
阪急バス
- 山田川の自然環境保全活動
北神急行電鉄

人づくり

- 阪急レールウェイフェスティバル
阪急電鉄ほか
- 沿線小学校などの工場・車庫見学
阪急電鉄、阪神電気鉄道、北神急行電鉄
- 「マナーアップ戦隊マナブンジャー」による地球温暖化防止・マナーアップ啓発活動
阪急電鉄
- 交通災害遺族への募金活動
大阪空港交通、スマイル、ニッポンレンタカー阪急、阪急観光バス、
阪急タクシー、阪急田園バス、阪急バス、阪急阪神エムテック、阪神バス
- 職業体験学習の受け入れ
大阪空港交通、北大阪急行電鉄、能勢電鉄、北神急行電鉄
- 北急ふれあいフェスティバル
北大阪急行電鉄
- のせでんレールウェイフェスティバル
能勢電鉄
- のせでんこども自然体験学習
能勢電鉄
- 秋の全国交通安全運動時の「交通安全フェア」
阪急ドライビングスクール服部緑地
- 第3回阪急バスグループ お客様感謝Day
阪急バス、大阪空港交通、阪急観光バス、阪急田園バス
- 営業所での体験学習、沿線学校での「バス教室」開催
阪急バス
- 鉄道の日イベント
北神急行電鉄



のせでんこども自然体験学習

子ども達が自然の大切さを学べるように



バイオディーゼルバス

地球温暖化を少しでも防止したい

コア事業が連携した取組

環境づくり

- アースデー2012 第3回 神戸・六甲山ツアーウォーク
阪急電鉄、阪神電気鉄道、阪神総合レジャー
- 箕面駅「もみじの足湯」入湯料金などの箕面山麓保全活動への寄付
阪急電鉄、阪急リテールズ
- バイオディーゼル燃料100%バス
阪急バス、阪急阪神ホテルズ、いいなダイニング、
阪急阪神エムテック、阪急不動産

都市交通

不動産

環境づくり

- 「SDD(STOP DRUNK DRIVING PROJECT 飲酒運転防止プロジェクト)」への参画
阪急電鉄、阪神電気鉄道
- 「1000000人のキャンドルナイト @OSAKA CITY」の共催
阪神電気鉄道、阪急電鉄
- 地域の美化・清掃活動
阪急仁川スポーツガーデン
- 彩都棚田ファーマークラブ
阪急不動産

節電やエコロジー意識を広めたい



キャンドルナイト



LIVE SDD

安心して快適な街をつくりたい

エンタテインメント・コミュニケーション

環境づくり

- 「ケーブルテレビのお店」周辺の地域清掃活動
ベイ・コミュニケーションズ
- 「こども110番」活動
ベイ・コミュニケーションズ
- 引ったくり防止カバーの寄付及び無料頒布
ベイ・コミュニケーションズ
- 六甲山クリーンハイキング
六甲摩耶鉄道

人づくり

- 職業体験学習の受け入れ
ウエルネス阪神
- こども向け自然体験プログラムと環境啓発企画展
阪神総合レジャー
- ベイコムジュニアサッカー大会
ベイ・コミュニケーションズ



ベイコムジュニアサッカー大会

スポーツを通じてすくすくと成長できるように

旅行・国際輸送

環境づくり

- 自然との共生に向けた森林保全講座
阪急阪神交通社グループ
- 従業員による間伐ボランティア活動
阪急阪神交通社グループ
- 従業員による清掃ボランティア活動
阪急阪神交通社グループ
- ペットボトルキャップ回収によるワクチン代寄付活動
阪急阪神交通社グループ
- 環境保全型トイレの寄贈
阪急交通社
- お客様向け社会貢献ツアー
阪急交通社

かけがえのない地球環境を守りたい



間伐ボランティア

人づくり

- こどものためのスポーツ教室
阪急交通社

ホテル

環境づくり

- タオル・シーツの再使用による環境保全団体への寄付
阪急阪神ホテルズ(大阪新阪急ホテル、新阪急ホテルアネックス、ホテル阪急インターナショナル)
- 使用済みインクカートリッジ回収運動
阪急阪神ホテルズ(吉祥寺第一ホテル)
- 環境マネジメント活動(KES)に基づくホテル周辺の美化活動
阪急阪神ホテルズ(京都新阪急ホテル)

さまざまな境遇の子ども達を支えたい



ドーナツ寄贈

人づくり

- 「キザニア甲子園」へのホテルパビリオン出演
阪急阪神ホテルズ
- 宝塚ハードドーナツの社会福祉施設などへの寄贈
阪急阪神ホテルズ
- 東日本大震災復興支援「桜プロジェクト」
阪急阪神ホテルズ
- 職業体験学習の受け入れ
阪急阪神ホテルズ(吉祥寺第一ホテル、千里阪急ホテル、宝塚ホテル、ホテル阪神)、
阪急阪神レストランズ
- ハートフルステイプラン(寄付つき宿泊プラン)
阪急阪神ホテルズ(ホテル阪神)
- 「Make a Wish」クリスマスチャリティーイベント
阪神ホテルシステムズ(ザ・リッツ・カールトン大阪)
- 肢体不自由児施設とのクリスマス交流
阪神ホテルシステムズ(ザ・リッツ・カールトン大阪)

流通

環境づくり

- レジ袋削減運動
阪急リテールズ、ブックファースト
- 「こども110番」活動
阪急リテールズ、ブックファースト

文化や芸術にふれて豊かな感性をはぐくめるように



絵本よみかせ会

人づくり

- 東日本大震災遺児支援「おにぎり食べて東北の子ども達を応援しよう」
阪急リテールズ、阪急電鉄
- 絵本よみかせ会
ブックファースト

その他

人づくり

- 阪急ゆめ・まち 親子チャリティコンサート
阪急電鉄
- 「キザニア甲子園」への電車パビリオン出演
阪神電気鉄道
- 知的障がい児等向け映画上映会
オーエス
- 職業体験学習の受け入れ
オーエス
- STACIAカード会員からのチャリティーコース応募ポイントの寄付
阪急阪神カード、阪急阪神ポイント



「キザニア甲子園」電車パビリオン

子ども達が「生きた体験」から社会を学べるように

グループが心をひとつにして開催した 「みんなが笑顔のクリスマスパーティー」

2011年12月3日、阪急阪神交通社グループの東日本大震災被災地応援企画「みんなが笑顔のクリスマスパーティー」が開催されました。震災で大きな打撃を受けた宮城県南三陸町の小中学生とその家族を招待して、楽しい時間を過ごしてもらおうイベントで、パーティーは企画・演出から運営まで、社員の手づくり。100人を超える社員がボランティアとして現地に入ったほか、国内外のグループ営業拠点から心のこもったプレゼントが届きました。

会場となったのは「南三陸ホテル観洋」。申し込みが殺到したため、定員を370人に増やしてご招待しました。巨大なツリーに明かりを灯し、社員が用意したゲームやマジック、バンド演奏などを楽しんでいただき笑顔の絶えない3時間でした。被災地を初めて訪れた社員は、未だ傷跡の癒えない現地の様子に言葉が失いつつも、今後何らかの形で復興支援を続けていく決意を新たにしました。

阪急阪神交通社グループ

これまで募金を通しての支援はしてきましたが、まだやるべきことが沢山あると実感。みんなが力を合わせれば、これだけできるんだ。と我がグループの底力を知ったような気がします。
阪急交通社 佐藤佑香里さん

今回の活動は有意義であったと思います。同じグループで働いているが職場の違う人々が、目的に向かってひとつに…普段の業務では決して体験できないことでした。
阪急交通社 千葉義宏さん

子ども達の笑顔が見られたことに感激しました。しかし、この笑顔の裏側には辛いことや悲しいことがいっぱいあったのだと思うと心が締めつけられる思いでした。
阪急阪神エクスプレス 今村健二さん

すべてにおいて手づくりで温かいパーティーでした。子ども達の笑顔、お母さんの恥ずかしそうな顔、お婆ちゃんの涙…。私も涙をこらえるのが精一杯でした。
阪急交通社 熊谷淳子さん



会社が大きくなるほど、社会における責任も大きくなり、期待される貢献度も高くなります。今回の活動を通じて、ますます社会貢献の必要性を感じました。
阪急交通社 後藤和稔さん

被災地の皆さんは、一步一步前へ進もうとされていて、子ども達の明るい笑顔がその源となっていました。人の力を改めて感じ、これからは自分のできることを継続していこうと思います。
阪急阪神ビジネスラベル 田村悦子さん

本当に楽しんでいただけたか不安な気持ちもありましたが、多くの方々に参加いただき、帰り際にはみんなが笑顔に…。達成感と、このイベントに携わることのできた喜びを感じました。
阪急トラベルサポート 折原保さん

被災地をメディアでみるのと実際行くのでは全然違い、見てきたことをしっかり伝えたいと思いました。すべてのことが自分にとって大きな経験になりました。
阪急阪神エクスプレス 佐竹靖子さん

Series 14
こうべ子どもにこここ会

多文化共生社会の実現へ さまざまな文化的背景を持つ 子ども達の成長を支援

国際都市・神戸を拠点に活動する「こうべ子どもにこここ会」。多様な文化的背景を持つ子ども達が直面する問題に対応すべく、教育や交流イベントなど多角的に支援を行っています。



日本で暮らす外国人が増加する昨今、問題となっているのが子ども達の「ダブルリミテッド」。幼い頃の移住などが主な要因で、バイリンガルと異なり、日常生活は問題なくとも、論理的思考の基礎となる言語能力がどちらも半分以下のまま成長し、知識を言語化・整理して積み上げることができず、学習に支障をきたしている子ども達です。「こうべ子どもにこここ会」は、そんな彼らのため「日本語・教科支援教室」や「母語教室」を開催。学校の勉強についていけるように、母語を学ぶことでアイデンティティ確立につながるように…と、幅広く支援を行っています。「ダブルリミテッドを防ぐにはさまざまな配慮が必要ですが、これ

までは宿題や教科の支援に留まっていた。と語るのは事務局長の田中さん。「けれど今回、ゆめ・まち基金からの助成を活かし、言語教育ツールの導入費用に充てられました。このツールは、読書やあらゆる自分の言葉で説明するプログラムなどを通じて、非日常の言葉をたくさん経験し、抽象的な概念を習得していくもの。これらを通じて、更なる言葉の学びと人間的な成長を支えたいと思います。」

また同会は、多様な文化的背景を持つ子ども達と、地域の人々が交流できる機会づくりにも力を入れていきます。特に年に1度の「深江多文化子どもまつり」は、さまざまな国の料理が楽しめる屋台や国際色豊かなワークショップなどで、会場は大盛況。地域に根ざした祭りとして、そして子ども達が抱える問題を一緒に考えてもらう大切な場として、さまざまな境遇の人々みんなが幸せになれる、多文化共生社会の実現に向けた確かな一歩となりつつあります。

「地域との共生」を支援する

「深江多文化子どもまつり」は、地域の中学生や大学生、NPOや自治体などが参加して地域全体が支える文化交流イベントとなっています。

「言葉の教育」を支援する

「日本語・教科支援教室」では、学校の勉強をサポート。地域の小中学校と連携して、一人ひとりの習熟度や家庭環境を考慮したケアが可能に。

こうべ子どもにこここ会
事務局長
田中 香織さん



活動拠点である神戸市は、今も外国にルーツを持つ子ども達が増え続けています。ボランティアやサポーター会員として協力していただけの方はいつでも大歓迎。みんなで幸せな多文化共生社会をつくりませんか？

こうべ子どもにこここ会

サポーター会員やボランティアとして協力していただける方は、下記ホームページをご覧ください。
〒658-0022 神戸市東灘区深江南町4-12-20-201 TEL/FAX 078(453)7440
URL <http://nikoniko.qee.jp/>
Email kobekodomo_nikonikokai@yahoo.co.jp

阪急阪神 未来のゆめ・まち基金

第3回 助成対象団体が決定しました!

阪急阪神 未来のゆめ・まち基金参加者数報告 (2011年12月末時点)

参加会社数 **54**社 参加人数 **948**人(昨年比**58**人増)

ご参加
おまちして
おります!

- 鶴殿ヨシ原研究所:ヨシ原の生物多様性保全活動
- 櫻守の会:宝塚の里山の保全・環境教育活動
- 船坂里山芸術祭推進委員会:アートによる地域活性化の推進
- 箕面里山工房:森林資源の有効活用・里山の保全活動
- みのお市民まちなみ会議:まちなみの保全・啓発活動
- (特非)遊悠舎京すずめ:京都の歴史・文化遺産の価値啓発活動
- (特非)おとくにバオ:子どもの豊かな文化・生活体験の機会づくり
- (特非)子どもコミュニティア:身障児と健常児の統合保育活動
- (特非)すいた環境学習協会:学校と連携した環境教育活動
- 宝塚ふぁみりい劇場:子どもの豊かな文化・生活体験の機会づくり
- (特非)チャイルド・ケモ・ハウス:小児がん患者と家族の闘病支援
- 定住外国人子ども奨学金実行委員会:日本在住外国人の子ども達の経済支援
- 豊中天文協会:天体観測を通じた環境啓発活動
- にほんごサポート ひまわり会:日本在住外国人の子ども達の日本語学習支援

決定した上記団体の活動紹介や飲み物をご用意しての交流を行う助成報告会を開催します。詳しくは本誌に挟み込まれている別紙をご確認ください。
※(特非)とは特定非営利活動法人の略 ※緑字は「環境づくり」、赤字は「人づくり」に関わる団体です(各50音順)

おすすめ! ボランティア

File:04

子ども達に居場所と学びの場を提供 フリースクールみなもでのボランティア募集中!!

不登校の子ども達の、学校に代わる居場所と学びの場…それがフリースクール「みなも」です。ボランティアの役割は、学習サポートはもちろん、ボードゲームやトランプ、野球などを通じて楽しい時間を一緒に過ごすこと。一緒に楽しい時間を創出してみませんか?



場所: フリースクールみなも(大阪市・大阪市営地下鉄南森町駅 徒歩4分)
※まずは、以下の問い合わせ先にご連絡下さい。

お申し込み・お問い合わせ先:フリースクールみなも
◆不登校の子ども達に学び・交流の場を提供することを目的に活動中。
TEL・FAX:06-6881-0803
URL:http://homepage2.nifty.com/freeschool_minamo/